

スポンサー募集とネーミング・ライツ

スポーツは私たちに感動を与えてくれます。スポーツ選手の活躍が私たちに勇気を与えてくれます

◎現状

近年企業スポンサーからの協賛支援で成り立っていた各スポーツ団体やアスリートの活動が、資金難により継続ができなくなるケースが頻発しスポーツを取り巻く環境が厳しくなっています。

◎3大要素

スポーツの運営には3つの大きな要素が必要です。

その3つが満たされる時そのスポーツ（選手又はチーム）は大きな活躍をみせ世間の客光を浴びるでしょう。

1. 選手：文字通り一番の要素
2. 育成者：業界に精通していて豊富な経験があること
3. 資金：スポンサー（協力者）及びファン

◎変化するスポンサー（資金提供者）

- ・スポンサー・・・・・・・・特定の資金提供者
- ・ネーミング・ライツ・・・・主にスポーツ施設に期間限定で企業名、ブランド名を付ける資金提供方法
- ・ファンド・・・・・・・・スポーツに特化したもの代表例「クラウドファンディング」
『スポーティー・ファンド (Sportie FUND)』(WEB サイト：<http://cf.sportie.jp>)

1. ネーミング・ライツ

従来のように単なるスポンサーからネーミング・ライツ（命名権）へと企業の動きが変化している。

ネーミング・ライツにより選手及びチームは新たな収入源を得ることが可能。スポンサー企業には①広告効果②従業員に対する無料チケット等の割り当てといった福利厚生上のメリットやビジネス機会、イベントを通じた販促等のプロモーション機会が与えられる。

2. 『スポーティー・ファンド (Sportie FUND)』

スポーツは私たちに感動を与えてくれます。スポーツ選手の活躍が私たちに勇気を与えてくれます

近年企業スポンサーからの協賛支援で成り立っていた各スポーツ団体やアスリートの活動が、資金難により継続ができなくなるケースが頻発しスポーツを取り巻く環境が厳しくなっています。

この資金難を解消するために多くのスポーツで選手育成のためのファンドが組まれている。日本でこの存在が大きくクローズUPされたのがテニス界で活躍の「錦織圭/盛田ファンド」である。

中身は、一般的な投資とは異なり「選手育成の夢/私が育てる+リターン（金銭、商品、ネームバリュー等）」を得られるのが特徴である。

*世間ではあまり知られていませんがマニー・パッキャオもファンド育成選手の一人です。

◎プロスポーツ最大<世紀の対戦>

世界ウェルター級王座統一戦<フロイド・メイウェザー・ジュニア VS マニー・パッキャオ>

2015年5月2日(日本時間5月3日)にアメリカ・ラスベガスで行われたボクシング世界ウェルター級王座統一戦は両者あわせて概算3.6億ドル(約480億円)という巨額のファイトマネー+PPV報酬が支払われた。ちなみに

リングサイド席はプラチナ化し(4,800万円/一般価格は700万円15分で完売)

◎世界初のヘビー級ボクサー誕生へ

ボクシングは世界のスポーツ（古代オリンピックからの競技）であり、現在4つのプロ団体（WBC, WBA, WBO, IBF）1つのアマ団体（AIBA）が存在しチャンピオンの数は100を超える。しかし、ヘビー級は世界最高峰のタイトルで「King of King」と呼ばれている。

国内では200を超えるプロボクシングジム（JBC加盟）、79名の世界チャンピオンを輩出（うち2名は緑ボクシングジム）したがヘビー級の世界戦に挑んだのは緑ボクシングジムだけである。

しかしながら、ヘビー級の選手育成には膨大な費用が必要となり、日本のジムではどこも手を出さないのが現状である。反面、前述のように世界的な人気・高額なファイトマネーを呼ぶのもヘビー級だけである。

*第一章

デビューから9戦9勝（9KO）「九州のタイソン」と呼ばれるウェルター級「別府優樹」（2014年全日本新人王・最優秀選手賞を獲得）を日本記録（15回）に

挑戦させ、九州のタイソンから「日本のタイソン」⇒「アジアのタイソン」⇒第二のタイソンへ育てる。

*第二章

スポーツを通じたアジアの平和外交を目的としアジア中心（中国、モンゴル等）に選手を発掘育成（現在、領事館及び中国にてUFC出場選手、プロモーターと交渉中）し上記選手とスパーリング（練習）をさせて育成する。並行して、アジアの選手を2020年東京オリンピックに出場させメダルの獲得を目指す。

*第三章

緑ボクシングジム所属の日本ヘビー級ランカー「竹原虎辰」と上記育成選手との「王座決定戦」⇒「東洋タイトル」「世界タイトル」へとステップアップさせる。

◎話題作り

1. 九州のタイソン ⇒ 日本のタイソン ⇒ アジアのタイソン ⇒ 第二のタイソンへ
2. スポーツを通じた平和外交
3. 社会的弱者（障害者、老人）との共生

放棄農地からの地産地消の作物による第6次産業化による「就労支援」

◎必要経費

選手生活費 年間200万円

選手育成費用 年間400万円

予備費用 年間100万円 合計×3年間 2,100万円

◎チャンピオン誕生想定確率

日本チャンピオン（90%）東洋チャンピオン（70%）世界チャンピオン（???)

◎リターン

1. 国内でのプロボクシング試合チケット（リングサイド）
2. ネーミングライツ（期間限定/費用等は要相談）

3. 世界チャンピオン獲得後のファイトマネーの分配
4. 日本、アジア、世界等、各界との人脈作り

2015/06/10

緑ボクシングジム

営業推進：Mr. sugar